

「ギョーテ(ギョエテ)とは、俺のことかとゲーテ言い」とは、よく知られた古い川柳だが、ロシア語でもギョーテと発音するので、岡本正巨先生から教わったこの川柳、忘れることはない。ゲーテさんは実際には「ゴーテ」と「グーテ」の間ぐらいの発音だそうだが、日本語にない発音を日本語で表記するのだから、ある程度は致し方ない。

昔の作家たちが書いた「ソヴェート」旅行記を読むと、モスクワの表記

を、モスコオとか、モスクバとしていたものもある。ロシア語を習い始め

## 琥珀こはく

た頃の先生が、モスクワの発音は、マスク

んと言ったのを思い出す。フィギュアのプルシェンコは、発音に近い表記

なら、プリューシエンコ

(あるいはプリューシチエンコ)なのだが、ここ

まで有名になるとあきらめるしかない。プル様と呼ぶ人もいるし。

ロシアの男子名のウラ

## 日本語表記のふしぎ

ヴァー、でジーミルがいつときウラも日本語でシミールとされていたことが多かったが、ようやく最近では、アクセントのはいませ

ついたところをのばしてウラジーミルになってきた。

日本語表記が本来の発音からとんでもなく

かけ離れることがある。ロシアのバリトン歌手

フボロス・トフスキーの、日本での公演案内や市販DVDでの表記が、ホ

から、カタカナ表記にすれば、フボ(ヴォ)ロス

トフスキーですよ。フボ様ファンとしては、いただきます。

このフボロス・トフスキーがアンナ・ネトレプコと熱唱する2013年夏の「赤の広場コンサート」は、臨場感たつぷりのコンサートです。無料動画サイトで視聴可能。音楽ファンの方は必見です。

ロス・トフスキーとなっていて、最初は別人かと思っただけだ。翻訳すればHvorostovskyなのだ

野田素子

女性リレーエッセイ